(C)十勝毎日新聞社

【第1戦・日本―ロシア】第1ピリオド13分すぎ、ロシア陣内にパックを放り込み、攻撃を仕掛ける日本代表のFW小野粧子（右）

小野、志賀ら壮行試合

女子日本代表 ロシアに惜敗

【長野】来年2月の平昌冬季五輪に出場する女子アイスホッケー日本代表「スマイルジャパン」（世界ランキング9位）とロシア（同4位）の壮行試合第1戦が24日、長野市若里多目的スポーツアリーナ（ビッグハット）で行われた。4－4のまま延長戦でも決着が付かず、GWS（ゲーム・ウイニング・ショット）の末に日本は4－5で競り負けた。十勝からはフルタイムシステム御影グレッズのFW小野粧子（36）＝紀山＝とGK近藤真衣（25）＝フルタイムシステム＝、帯広レディースのDF志賀葵（18）＝帯三条高3年＝がメンバー入り。小野は第1セットとして滞氷し3本のシュートを放った。志賀も出場。近藤はベンチ外だった。

第2ピリオド（P）16分に先制された日本は、1分後に寺島奈穂（Ｄａｉｓｈｉｎ）のゴールで同点に。18分には床亜矢可（西武）のロングシュートで逆転した。第3Pにも浮田留衣（Ｄａｉｓｈｉｎ）、床秦留可（西武）の得点で突き放したが、同P残り5分を切ってから2失点して逃げ切れなかった。

（北雅貴、金野和彦）

【第1戦・日本―ロシア】第3ピリオド5分すぎ、中盤でパックをキープする日本代表のDF志賀葵

小野 落ち着いてプレー

○…「勝ち切れなかったのは反省点。4得点は数日間で取り組んできた練習をチームとして出せた」。小野粧子はチーム最年長らしく落ち着いて話した。

大澤ちほ主将（道路建設ペリグリン）、米山知奈（同）と第1セットのFWを組んだ。ボード際のパックキープから好機をつくったり、第3ピリオド（P）2分にはゴール裏からのパスをダイレクトで合わせる惜しいシュートを打ったりするなど存在感を発揮した。

第2Pに失点にはつながらなかったものの、自分のパスがカットされて逆襲された。「選択ミス。得点した直後のシフトだっただけにもっと大事にいかないといけない」。反省しつつも、世界の強豪と4試合を行ったフィンランド遠征から調子を上げてきており、表情は明るい。「いろいろな局面では落ち着いてプレーできている」と充実した様子だった。

失点自分の責任 志賀

○…第4セットのDFとして出場した志賀葵は、3－1とリードした第3P9分の失点を悔いた。自陣ゴール前で1対2の数的不利をつくられ、GKの小西あかね（西武）が1本目のシュートを止めたものの、リバウンドを決められた。

「（相手にリバウンドを）たたかせた自分の責任。何か方法はなかったのか考えないと」と唇をかみしめた。

失点以降はリンクに立てなかった厳しさを味わう一方、それまでは時間は長くはなかったが、逆側のDFが抜かれた際のカバーリングや、ディフェンディングゾーンでは確実にプレーをした。「ロシアは1本のパスで攻撃の形をつくるのはさすが。この日の反省を生かし、ゴール前のバトルで勝って結果を残さないと試合に出られなくなる」と、気を引き締めていた。

（24日）

◇第1戦

ロシア		日本
5		4
0	－	0
1	－	2
3	－	2
延		長
0	－	0
GW		S
1	－	0

▽得点【ロ】①アリエナ（2P16分41秒）②トカチェンコ・スヴェトラーナ↓アリエナ↓ドブロディエワ・エカテリーナ（3P9分19秒）③スモリナ・エカテリーナ↓インナ（3P15分30秒）④スモリナ・エカテリーナ↓アレクサンドラ↓リアナ（3P18分19秒）⑤アリエナ（GWS）【日】①細山田↓寺島（2P17分43秒）②久保↓床秦↓床亜（2P18分47秒）③久保↓浮田（3P4分43秒）④床亜↓久保↓床秦（3P12分3秒）

▽反則【ロ】2（ニコラーエワ・エカテリーナ、レベデワ・エカテリーナ）【日】0

▽シュート数【ロ】24（6、7、8、2、1）【日】19（5、7、6、1、0）